『老子』
蜂屋邦夫訳註 岩波書店／岩波文庫

本　　館	請求記号：X/080/I95B/Ros	資料ID：701088536
神田分館	請求記号：X/080/I95B/Ros	資料ID：701072753

国際コミュニケーション学部教授　土屋 昌明

原書の翻訳を読んでみたい。古今東西の書物のうち「古」「東」で視野を広げてほしい。『老子』は老聃（ろうたん）という人が中国語で書いた本とされています。その原型はBC320年ころには存在しました（古い墓から竹の札の本が発見された）。今も愛読されています。香港で政策反対のデモが起こった時、デモ隊は警察の暴力的な鎮圧を避ける行動原理を「Be Water」（水になれ）と命名しました。これはカンフーのブルース・リーの言葉ですが、考え方は『老子』に基づきます。

『老子』の魅力は、生き方を述べていることです。『老子』によると、生き方のお手本は「水」です。水には形が無く、器によって自分を自然に変えられる（柔軟性が大切）。水は、上ではなく下に向かう。器に入れて静かにしていると、濁りは下に沈み清くなる。清い水は、生命の源になる。天から雨水が降り、植物を生育させる。水は天と地を通じて存在している。天地には、水を通して可視化されるような、根本的な何かがあり、人はそれを手本にして生きる。それを老子は「道」とした。ここで使った「無」「自然」「柔」「下」「静」「清」「道」などは、いずれも『老子』に登場するタームです。

『老子』は韓国や日本にも普及しました。かの有名な夏目漱石は、大学時代のレポートで「老子の哲学」を書いています。『老子』を読むと、ストレスの多い生活が少し楽になるのも事実です。